

## 黄色のバラをセントレアへ

### 中部国際空港へバラの贈呈

6月の父の日を前に、町長が中部国際空港の犬塚力代表取締役社長を訪ね、町の特産であるバラの鉢植えと、黄色い花束を贈呈しました。

中部国際空港「セントレア」にちなんで、大野町で開発された世界で一番青いバラ「ブルーヘブン」に「セントレアスカイローズ」という愛称がつけられたことをきっかけに、町と中部国際空港との交流が続いています。

当日は、親善大使の馬場祐花さんも同行し「バラの町」をPRしました。



▲町長と親善大使からバラを受け取った  
犬塚社長（中左）と櫻井副社長（左）



▲バラを手渡す青木組合長（左）

## 父の日にバラの花束を

### バラ苗生産組合

6月12日、父の日を前に、バラ苗生産組合の青木宏達組合長が役場を訪れ、町の特産であるバラの花束約70輪を町長に手渡しました。

贈られた色とりどりのバラは、町の特産であるバラのPRにと役場ロビーや町長室などに飾りました。

## 地域の安全、安心のために役立てて

### 岐阜乗合自動車（株） 発電機寄贈

6月19日、岐阜乗合自動車（株）から、地域の安全、安心のために役立ててほしいと、ディーゼル発電機1台が寄贈されました。

このたびの寄贈は、同社が今年4月に創立80周年を迎え、日頃の感謝を込めて行われたもので、10年おきに継続して行っています。役場において贈呈式があり、瀧代表取締役社長が「創立80周年を機に、大野町とその住民の方に感謝のしるしとしてお贈りします。安全、安心を第一に、これからも地域の発展に寄与していきたい」と話されると、町長は「素晴らしい発電機をありがとうございます。災害時等において有効に活用させていただきます。また、日頃は岐阜方面への交通手段として維持をしていただいていることに感謝を申し上げます」とお礼を述べました。



▲目録を手渡す瀧社長（左）



▲全国大会に出場する中川さん（中央）

## 全国での健闘を誓う

### 日本アマチュアゴルフ選手権競技出場者激励会

6月12日（月）、「2023年度（第107回）日本アマチュアゴルフ選手権競技」に出場を決めた中川瑛太さん（岐阜聖徳学園高校3年）の激励会を役場で行いました。

中川さんは「4日間、体力とメンタルに打ち勝って、楽しく全力でプレーをしたい」と強く述べると、町長は「全国大会に出場すると同世代には強い選手がいると思いますが、切磋琢磨してひとつでも良い成績を残して欲しい」と激励しました。



## 犯罪や非行のない明るい社会を築くために

### 社会を明るくする運動

7月3日、役場において「社会を明るくする運動」の内閣総理大臣と県知事からのメッセージ伝達式が行われ、「社会を明るくする運動推進委員会」の保護司会代表の田中博さんより町長へメッセージが手渡されました。

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行の防止と、犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、安全で安心な明るい社会づくりをめざして、地域社会全体で犯罪や非行の抑止力を養うことを目的としています。

町では、町内の保護司や更生保護女性会、BBSのメンバーで組織された同委員会が活動を行っており、各小中学校へ訪問し、啓発用のチラシなどを配布しました。



▲伝達式で町長にメッセージを手渡す田中代表（手前右）

## 鮎が泳ぐきれいな川を守りたい

### 根尾川筋漁協稚鮎放流

6月8日、根尾川上流の本巢市山口にて、根尾川筋漁業協同組合による稚鮎放流事業が行われました。

この事業は「いきものをたいせつに」「いつまでもきれいな川に」と願い、行われているもので、西こども園および南こども園の年長児22人が、川岸からバケツを使って放流しました。また、鮎の生態や川での遊び方についてクイズ形式で楽しく学び、稚鮎の放流やマジマスのつかみ取りも体験しました。



▲放流の様子



▲豊かな自然にふれました

## 長寿のお祝い

100歳おめでとうございます  
これからも健やかに



福地 信子さん（領家）  
大正12年6月13日生まれ

石原 房枝さん（大野）  
昭和3年6月14日生まれ

95歳おめでとうございます  
これからも健やかに



北見市  
ところ通信  
Vol. 282

## 第38回サロマ湖100kmウルトラマラソン — 初夏の湖畔を疾走！ —

6月25日、北見市常呂町、湧別町、佐呂間町を舞台にウルトラマラソンが開催され、3,442人がサロマ湖畔を駆け抜けました。ランナーは、「もう少しでゴール」、「頑張って」と声援を受けながらゴールを目指し疾走。

気温が刻々と上昇する過酷なレースとなりましたが、2,342人が見事に完走。100kmの男子の部では、6時間6分8秒の日本記録も生まれました。

大会運営では、常呂中と常呂高校の生徒をはじめ、多くの方がボランティアとして参加。ランナーを励ましなが大会を支えました。

